

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470301090
法人名	医療法人 ほうしょう会
事業所名	グループホーム うの花
所在地 (電話番号)	鈴鹿市石薬師町字青木1096 (電話) 059-373-1111
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 1 月 29 日(火)

【情報提供票より】 (H19年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 8人, 非常勤 7人, 常勤換算	12.2人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	(有) 150,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4)利用者の概要(12 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	6 名	要介護2	3 名			
要介護3	4 名	要介護4	4 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	83.2 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	朝川クリニック にえ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの名称「うの花」から、石薬師町が生んだ著名な歌人佐々木信綱の『夏は来ぬ』の歌詞が連想される。ホームは通所介護事業所、居宅介護事業所と向き合って建てられている。西に鈴鹿山脈が広がり、周りに植木畑、住宅が点在し、道路を隔てて工場があるが、静かな環境である。母体は医療法人で代表の医師が定期的に往診を兼ねてホームへ顔を出され、医療との連携がよい。利用者が弾くピアノと職員のギターの演奏にあわせて、利用者が童謡や唱歌を合唱されている。利用者の穏やかな笑顔から、安心した生活を送られているのが窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度外部評価で指摘されたところについて、①契約書に利用者の権利、義務を明記②研修への参加③薬の保管場所への鍵の設置が見直しされ改善がされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、事前に職員全員が目を通し検討して、管理者がまとめて報告がされた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	19年4月から3回、開催されている。地域の代表として、自治会長、民生委員らが参加され、災害時に事業所が地域の避難場所として協力することなどが議題として話し合われた。また、地域の交流の場として、地域の方にも呼びかけて「うの花サロン」を開催し、今後も続けていく意向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情箱が玄関に設置されているものの、特に意見は出されていない。家族会を作って家族の思い、意見、要望が出る環境作りをしていきたい意向である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	管理者が地域の老人会の会合に招かれ、事業所の説明や認知症についての話をし顔なじみになっている。事業所へ見学を兼ねて遊びにきてもらうよう誘ったり、また老人会からはサークルの囲碁、将棋や手芸教室に来るよう勧められている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念そのものを変えるのではなく、昔ながらの土地柄であり、地域にとけ込んだ事業所であるよう目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の毎朝の引継ぎ時に理念を唱和し、共有が図られている。基本的に寄り添うケアを心がけており、いつも声がけする時は利用者の傍らに近づいて話すよう実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	19年9月からうの花サロンを開催し、家族はもとより地域の方々にも呼びかけ交流の場を持ち、好評であった。今後も定期的に続けたい意向である。また、老人会との交流も始まりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度外部評価で指摘をされたところは、運営者、管理者、職員で検討され見直しされた。本年度の自己評価は職員が目通しして、管理者がまとめて報告された。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年4月に初回の運営推進会議が開催され、12月に3回目が開催されたが、参加メンバーも増え、議題に災害時に事業所が地域の避難場所として協力できるのではないかなど、より具体的に地域との連携が話し合われている。	○	メンバーに市の職員の参加を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	提出書類を持って市役所を訪ねている。地域包括センターとは情報交換などを行っている。月2回、介護相談員の受け入れをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回「うの花たより」を発行し家族へ送付している。また、面会時には家族とできるだけコミュニケーションをとって話をするよう心がけている。お金を預かっている利用者が3名あり、金銭出納報告を面会時にしている。また、買いたいものがある方で、金額がかさむ時は、その都度家族へ連絡をして同意得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置し、重要事項説明書に相談、苦情窓口が明記されているが、特に意見、要望等は寄せられていない。	○	家族会を立ち上げたい意向であり、期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間、新規利用者はなく、職員の異動もないので落ち着いた状態である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、管理者が順番、研修内容等勘案し、随時参加できるよう指導されている。また、職員は資質の向上を目指し、資格取得に挑戦をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流、情報交換は随時行われている。県のグループホーム連絡協議会へ加入はしているが、職員間の交流はされていない。	○	他事業所の職員との交流は、仕事をする上でのスキルアップにつながると思われる。ぜひ職員が交流する機会を作られるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在、利用者は、事業所での暮らしが1年以上経過し、事業所の生活に馴染まれている。日々の暮らしを支える基本が寄り添うケアを実践しており、孤立化を招かないよう、いつも細心の注意を払っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできること、できないことの把握をし、趣味など楽しみごとを一緒にしている。ホームシアターのビデオで「寅さん」映画を観て、一緒に笑ったり、泣いたり共感したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントから利用者の生活歴を把握して、ひとり一人の思いを聞き、過去の生活から切り離すのではなく、つなげていくようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員がひとり一人のアセスメント表を作成し、それをもとに介護支援専門員が介護計画を作成している。	○	担当制にして、介護計画を担当の職員が介護支援専門員と作成するようになれば、担当者は利用者をきめ細かく把握することが求められ、なおかつ職員の力量も上がることが期待できる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回、モニタリングをしている。変化がない時は、3ヶ月に1回、変化があれば随時の見直しがされている。介護計画は、丁寧な手書きで記入されている。手書きによることで家族にも見てもらいやすいとの事である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族が希望する医療機関への通院介助を実施している。また、年に1回老人健康診査には、職員が介助をかねて受診に付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関であり、連携は綿密にとられている。隔週に1回代表の医師が往診し、利用者の心身の状態を把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は終末期までの看取りはしていないが、本人や家族の意向にそった支援をしていきたい方針である。そもそも事業所への入居までに、特養や老健への入所申請をしている方もあり、その時々々に相談をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へは丁寧な対応を心がけており、不快な言葉、大声で言わないなど周知され実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	笑いを取り入れ絶やさないう、日々幸せに過ごす支援がされている。ひとり一人、時系列に日課表が作られているが、無理強いをしないで、それぞれのペースを大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時折、バイキングやバーベキューなどで目先を変え食事を楽しんだり、雑誌などを見て、食べたい物を献立のメニューに取り入れている。食事は、職員は介助に専念して一緒には食べないが、話題を提供し、楽しい食事風景であった。利用者は後片付けなど自然にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、午後2時～5時にゆっくり入ってもらう支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除や共有スペースの掃除、台所の手伝い、洗濯物たたみ等々それぞれ役割がある。また、ピアノを上手に弾かれる利用者の伴奏で童謡や唱歌を楽しんでいる。みかん狩りに出かけたり、海までドライブして気分転換を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩を日課にしている。冬時には事業所内を歩いて足腰を鍛えている。買い物ツアーも利用者の楽しみで、ショッピングセンターまで出かけている。その後には回転寿司やラーメン屋に寄るのが出かける密かな楽しみでもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練をしている。災害時に当施設が地域の避難場所として協力することなどが運営推進会議で話し合われており、今後具体的な取り組みを進める意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、系列の通所介護事業所の管理栄養士が作っており、バランスよくカロリーにも配慮されている。水分補給は定期的に提供されている。毎日、バイタルチェックしており、記録がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりした共有空間である。天井が高く、天窓からの光も温かく感じる。絵画が飾られ、ピアノが置かれている。壁にあまり飾り物がないのが好感が持てる。気になる臭いもなく、空調もほどよい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや整理ダンスが持ち込まれ、家族の写真が飾られたり、思い思いの居室風景である。どの居室もきれいに整理整頓されていた。カーテンは防火用カーテンを利用者の取り付けでされて、個別性がある。3畳の畳がそれぞれの居室に置かれ、座る生活も出来る。		